

「強み」を 磨け

ムーブ (神戸市中央区)

た。特許出願中だった携帯電話の機能を拡張するシステムが兵庫県中小企業振興公社の補助事業に認定されたのだ。特典は賃貸料の安い同公社の管理ビルへの本社移転。システムは県の新産業創造プログラムにも採用された。資金繰りが楽になった。ピンチは切り抜けた。

社長の市成修(むらた)氏は暗たんたる気持ちだった。二〇〇〇年九月のことだ。

当時、ムーブは、米・マイクrosoft社が製造するインターネット対応テレビに使うシステムの構築・販売権を持っていた。ところが、マイクロ社が突然、日本からの事業撤退を表明。初めての大口取引にこぎ着けた矢先だった。経常益の二十倍もの損失が残った。株式会社公開の話も流れた。

しかし、「会社経営は三本柱の事業で進める」という創業以来の方針が窮地を救っ

今は、ホームページ(HP)の作成や運用を企業から請け負うコンテンツ開発を収益の柱とする。例えば、ホテルの

データ
1987年
設立。資本金
6千万円、社員8人。2
004年6月期売上高は
約7千万円。今期は1億
3千3百万円を予想。中
国・北京と上海にもコン
텐츠開発の拠点を置
く。顧問に兵庫県立大の
力宗幸男教授を迎えてい
る。

コンテンツ開発

宿泊予約HP。発注元のホテルが付けた条件は「パソコンの苦手な高齢の従業員でも簡単に扱えること」。そこで作ったのが、宿泊希望者がHPから予約すると、内容がホテルのプリンターで自動的に印刷される仕組み。従業員はパソコンの知識がなくても通常通りの業務が続けられた。技術が進むと難しくなるというのはおかしいと思うんですよね」と市成。

NTTドコモの携帯電話サービス「iモード」へのコンテンツ開発もiモード開始とほぼ同時。迅速な開発も身上市成は神戸市内に接続地点を設置していた。大手通信会社力になったのは、情報を保存・提供する自前のサーバー。一九九五年からインターネット接続業を手掛け始めた市成は神戸市内に接続地点を設置していた。大手通信会社



創業18年目。「今や『老舗』のベンチャー企業になった」と笑う市成社長(左端)。次の中核事業の育成にも余念がない。神戸市中央区豊井通5、ムーブ三宮オフィス

運用管理まで一貫請負

の手が回らない地方都市の独立接続業者と連携し全国網を構築。話題をさらった。サーバーを所有しているため、HPの作成から運用管理まで一貫して請け負えるという強みが生きた。

「接続業者だからウイルス防御力も高い。絶対的な安心感を持ってもらっている」。市成は自信をみせる。コンテンツ開発を収益の柱としながら、中国メディアとの提携や、いつでもどこでも情報に触れられるというユビキタス社会に向けた新サービスも進み始めた。

「信じられないくらい簡単で便利になった」と驚いてほしい。社名のムーブには、「感動」という意味もあるんです」

敬称略
(市成和華子)

続・光る企業